

親切なサマリヤ人

単元Ⅰ 第1課

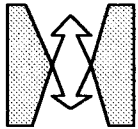
聖書 ルカ 10:25-37

暗誦聖句 ルカ10:27 (新改訳)

「自分と同じように、あなたの隣人を愛せよ。」

聖書の真理

困った人に対する思いやり



目標

イエスが全ての人を愛されたように私たちも隣人を愛し、親切にする。

教師へ

上級生は、少年後期で、大人の子供と言われる時代です。各自の能力も現われます。

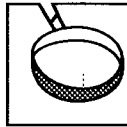
- * 霊的・信じてことばに従う。
- * 理解・事柄に対して思案が広く、一般的に考えられる。
- * 想像力・事実や英雄、偉人に興味を持つ。
- * 訓練・読む力、理解力があり、活動を起こすことができる。
- * 世界観・世界的視野が開かれ外国の出来事に関心をもつ。

自己中心的で、他の人に対してあまり関心を示せない。批判的にもなる。体の悪い人が隣の席についても興味を示さない。しかし、正義感が強く、強く生きた人物伝などに深い関心をもつ。

このたとえ話しは強盗に会って傷ついている人を、祭司、レビ人はなぜ彼を助けられなかったかを考えさせる。

クラスのための準備するもの

- ☆ 新聞の記事、雑誌の切りぬきの絵。
- ☆ 聖画、紙芝居、偉人の本。
- ☆ 礼拝のために、海岸の音の収録テープ。



授業例

活動 ~9:00

・新しいお友だちを招くパーティの計画をたてる(1)

どんなパーティにするか話し合う。

いつ、どこでなども教会と生徒の都合を合わせるように

・今学期のテーマ曲を練習する

—静かな音楽— (きめておく)

礼拝 9:00~9:15

黙 禱

さんび テーマ曲

祈 り 神さまの愛をはっきりとわかるように願って。

お話し 「無関心な人」

けんさん

聖書の学び 9:15~10:00

導 入 ワークの導入と家庭でをみて、困っている人が身近かにいることを感じさせる。(イエスさまのときも大ぜいいた)

本 論 ①あるとき律法学者が……律法学者の説明

その律法学者のイエスへの質問—それに対する答

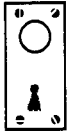
②「親切なサマリヤ人」が話された事情

③ルカ10:25-37をよんで、ワークの絵をみながら、

どんな場面か話し合い、答えを書く

④暗誦聖句をおぼえる。意味を確認して。

適 用 なぜ私たちは困っている人に親切にするべきか考えさせて導入で書いた人の内一人を選んで、今週、その人のためにできることを考え、ワークに書く。それが実行できるよう、みんなに祈らせる。



学びの前に

活動

1. 掲示板(1)

コラージュを作る。雑誌や新聞から色々な人の写真を切りぬくテーマに基づいてタイトル考えさせるとよい。(コラージュとは、印刷された写真や絵を切り抜いて一つのテーマに組み合わせたもの。)

2. 展示(1)

テキストと同じ場面の紙芝居の部分を部屋の装飾にする。

礼拝

黙想 静かな音楽

焦点聖句 エペソ1:2,3

賛美 神の愛について

例：教会学校聖歌12

神さまのきのこすずめまで。

祈り 神の大きな愛を感謝して

聖書

コリント8:9,

エペソ2:1, 3b-10, 5:1-2a,

Iテサロニケ3:12-13

(上級生に読ませる)

お話 イエスさまと困っている人。

※ 波みの音を聞かせ、小さな子供の遊び声や砂の上を歩く足音などで、のんびりした海岸の様子を想像させます。

その時、突然「助けて！」と言う叫び声が聞こえました。海岸にいた人々は、沖の方を見ました。冗談なのでしょう。いいえ、岸からかなり離れている所に釣り船がひっくりかえっているのが見えます。二人の少年がひどくこわがって助けを求めながら、ひっくりかえった舟にまたがって奮闘しています。「フーンこれは面白い」人々はこの光景を見ようとして海岸に集まってきました。ある人はもっとよく見えるように双眼鏡を取出し、また、ある人は沖の少年に何か叫んでいます。ひっくりかえった舟に近づいているボートもいくつか見えますが、ボートの人たちは、少年に何か叫ぶだけで助けようとしませんでした。少年たちは助けを求めてもがき苦しんで、疲れ切って4時間も経ってから、やっと安全な岸にたどり着くことができました。

そんなことあり得ない、と思うかも知れません。人々はそんなに無関心で、無情であるはずがないと。でも、これは実際にこの少年に起こった

ことなのです。後になって、助けてくれなかった人々に対してどう感じるかと、少年達に尋ねました。「本当にひどいことでした。こんなに冷たい人々を知りません。」皆さんがもし、そこにいたとしたらどうしたでしょうか。考えてみてください。

聖書 Iコリント13:4-8 (一緒に読む。愛の箇所にと入れて読めるか、考えながら。)

賛美 テーマ賛美

例：ふくいんこども賛美歌44

“むかしイエスさまが”



聖書の学び

導入

ワークブックの間を見ながら、この人物はだれのために自分の生涯を捧げた人か話合う。

世界の中で色々なものが不足して助けを求めています。食物がない、水がない、薬がない。両親がいない、着るものがない、お金がない、病気の人がたくさんいる。…等。

このように世界の中には、たくさんの必要があります。日本に住む私たちはどうでしょうか。色々なものが十分に満たされています。物質的には不足はないかも知れませんが、私たちの心はどうでしょうか人のために何かをして上げようと思う気持ちを持っていますか。イエス様はこのたとえ話しを通して様々な助けを必要としている人こそ私たちの隣人です。と教えています。

I 律法学者の問いとイエスの答え

ルカ 10:25-29

律法学者は自分のことを、律法が書いてある旧約聖書に精通しており、専門家として(25)隅から隅まで知っていると思っていました。ですから「先生、何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受け取ることができるでしょうか。」と言う質問は、心から知りたいと思う気持ちから出たものではなく、イエスさまを試そうとしたものです。彼はイエスさまの問い返しに(26)すばらしい答えをしました。その答えは、まとを得ており、イエス様は「そのとおりです。」と言われ、そして「それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」と言われたのです。しかし、彼は

このまま引っ込んで専門家としての立場がない、また、この律法の教えを今まで行ってこなかったと思われては大変、何とかして自分の正しさを示しておかなければ、と思ったのでしょうか。続いて質問をイエス様にしました。「では、私の隣人とは誰のことですか。」これが、イエス様のなさった、親切なサマリヤ人のたとえ話のきっかけになったのです。

II イエス様のたとえ話し

—親切なサマリヤ人

ルカ10:30-37

※聖書を読み、旅人やサマリヤ人の気持ちを考えてワークブックの間をする。

一人のユダヤ人がエルサレムからエリコへの旅をしていました。その道は下り坂で曲がりくねり、荒れはてた岩のごつごつしたところであり、危険な場所でもありました。と言うのは、この辺に時々強盗が出没して旅人を襲っていたからです。彼は急いで危険な場所を通り抜けようとしたのですが、その時突然、岩陰から数人の男たちが現れると、たちまち彼を捕え着物をはぎ取り、持ち物を奪うと、なぐりつけ半殺しにして逃げて行きました。彼は息も絶え絶えに岩陰に身を寄せ、助けを待っておりますと、やがて、彼がさっき来た同じ道を誰かが下って来ました。あれは服装から見て、いつも立派な教えを説き、神の宮に仕えている祭司に違いありません。(ああ、これで助かった!) 声も出せずにただ見上げると、その祭司はびっくりしたような顔をして彼の方を見ていましたが、何も言わないで、避けるように反対側を通り過ぎていきました。何ということでしょう。「自分と同じようにあなたの隣人を愛せよ」と教えていたのは彼だったではないですか。しばらくすると、誰かがまた、道を下ってきます。(こんどこそは助けてくれますように。) 彼が見ると、それは、やはり、神殿の仕事にたずさわるレビ人です。(きっと助けてくれるにちがいない。) でも、彼の期待は裏切られました。レビ人は、まるでこの傷ついた旅人が汚いものであるかのように目をそらすと、さっきの人と同じように、反対側を通って逃げるように下りていきました。これはどうしたと言うのでしょうか。彼らはこの旅人にかかわったら損をすると思ったのでしょうか。それとも、身が汚れるというのでしょうか。かわいそうに旅人は身体に受けた傷と心に受

た傷の痛みに、ますます弱ってしまいました。そうしていると又、誰かの足音がします。荷物を背にのせたロバを引きながら一人の旅人が下って来ました。岩陰の彼に気が付くと驚いて立ち止まり、早速、荷物の中からオリーブ油とぶどう酒を取り出し、傷の手当てをしてくれました。「かわいそうに、ひどい目に会いましたね。私のロバに乗せて宿屋にお連れしましょう。もう大丈夫ですよ。」彼はそう言って傷ついた旅人をロバに乗せ、宿屋に連れていき、一晩中、介抱してくれました。翌朝、彼は宿屋の主人に言いました。「私はどうしても出掛けなければなりません。このけがが人の世話を頼みます。デナリ二つを置いていきますが、足りなければ、帰りに私が必ず払いますから、よろしく願います。実は驚いたことに、この親切な人はサマリヤ人だったのです。当時、サマリヤ人とユダヤ人は中が悪く、お互いに行き来もせず、話もしないのが常でした。

※デナリは、通常、一日の仕事に支払われる額です。

※サマリヤ人とは、サマリヤ陥落後(BC722)異国人と結婚した残留イスラエル人の子孫で、ネヘミヤの時代に、ゲリジム山に神殿を建設しました。それをユダヤ人は異端として拒否しました。実際サマリヤ人は、モーセ五書のみを經典としていたのです。そのような時代背景から両者は、宗教的にも又、人種的にも激しく反目していました。

イエス様は、律法学者に言われました。「この三人の中で誰が、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエス様は言われた。「あなたも言って同じようにしなさい。」(36,37節) 彼には何が大切なことなのか、イエス様はなにを言おうとしておられるのか、やっとわかってきたようです。今まで彼は、知識としての律法には精通していましたが、それを実行することには足りない者でした。イエス様は二度も「それを実行しなさい」「あなたも行って同じようにしなさい」と言われました。神のご命令が知識のみにとどまらず、神の愛に押し出される時、それは隣人愛の形をとって実践されます。私たちが聞いたなら、それを私たちの場合に置き換え、実行することが大切です。

まとめ

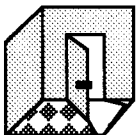
聖書の隣人に対する教え——積極的な教え（レビ19:13-19）自分を愛するように隣人を愛せよ。

律法学者の隣人にたいする考え——消極的な考え＝自己満足、自分の隣人が誰であるわからない。

私に対するの教え——積極的な教え。イエス様は言われた「それを実行しなさい。」

神に仕えるレビや祭司は、何故、彼を助けなかったのでしょうか。次のようなことが考えられます。

- ・自分の用事を急いでいた。
- ・怖かった。
- ・誰も見ていない。
- ・面倒くさい。
- ・介抱するのが損と思う。
- ・自分に直接関係がない。
- ・困っている人への思いやりがない。
- ・優しさが無い。



適用

イエス様は「あなたも行って同じようにしなさい。」と言われました。あなたに出来る親切は何でしょうか。イエス様はあなたの近くにいて困っている人、助けを求めている人も、とても愛しておられます。イエス様はあなたに勇気と力を与えてくださいます。イエス様は勇気あるサマリヤ人の話しを通してあなたにもそうして欲しいと望んでいます。「あなたも行って同じようにしなさい」と声をかけています。あなたはどうか。身近にいる困っている人に声をかけて親切にしてあげることができますか。（具体的にどんな人がいるか、又、自分に何が出来るかを考えさせます。）自分で決心したことを、この1週間思いながら、隣人に対する愛を表わすことが出来るよう勧めます。